

R5 学校評価計画

NO. 1

重点指標		具体的取組		主担	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準		判定基準	備考
1	中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1	中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	生徒指導 教務 学習 各教科	生徒、保護者ともに約8割が、挨拶の習慣が身に付いていると思っている。しかし、日常生活の中でしっかりと挨拶できない生徒もいるので、今後も粘り強く指導していきたい。また、3点固定(起床時刻、学習開始時刻、就寝時刻)と、提出物や課題を期限内に出させる指導をしているが、一部の生徒が守られない状況が見受けられ、継続的な指導を必要としている。学校内外において、ほとんどの生徒は錦中生としての自覚と誇りを持って行動している。	【成果指標】誰に対しても、大きな声で自分から気持ちの良い挨拶をする習慣が身に付いている。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		CまたはDの場合、生徒指導部で再検討	生徒対象アンケートにより評価
						【成果指標】提出物や課題は、期限を意識して取り組んでいる。	提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		CまたはDの場合、教務、学習、各教科で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		1-2	健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	保健指導 部活動指導	ほとんどの生徒は、正しい生活習慣を身に付け健康管理に気を付けるとともに、部活動で多くのことを学び充実した学校生活を送っている。また、中学3年生の夏以降も、自らのあり方・生き方を考え、学習や部活動に意識を高く持って取り組む生徒が見られる。しかし、不規則な生活や、自分の健康に気を配れない生徒も一部見られる。	【成果指標】規則正しい生活を通して健康な生活に気を配るとともに、部活動を通して多くのことを学び、心身ともに逞しくなっている。	規則正しい生活をするともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		CまたはDの場合、部活動担当で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		1-3	中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	各教科	英語は国レベルで強化が進んでおり、4年前から英検の全員受験に取り組んでいる。英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の目標が達成できるように取り組んでいる。	【成果指標】英検の取得級に目標をもち、合格を目指して、計画的に学習を進め目標級を取得している。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満		CまたはDの場合、教科で再検討	英検の取得率により評価
		1-4	朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書指導	読書に親しむ生徒は多い。さらに目的をもって本を読んだり、知識や教養を広めたりすることができるよう読書の質の向上に取り組む必要がある。	【努力指標】読書が習慣化し、自立した読み手として目的に沿った読書に取り組んでいる。	読書が好きである。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		CまたはDの場合、読書指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
					朝読書に、集中して取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満					
		1-5	望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	特別活動 生徒指導	「学校へ行くのは楽しい」に肯定的な回答をした生徒の割合が9割、教師による組織的な対応についても肯定的評価が100%である。毎月の悩み・迷惑調査や年2回の生活アンケート、組織的な対応で生徒の些細な変化も見逃さない取り組みが継続されている。	【努力指標】望ましい人間関係づくりを目指す特別活動を実践するとともに、日常的な生徒観察や定期的なアンケート等を通していじめを見逃さない学校づくりに取り組んでいる。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等とおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満		CまたはDの場合、管理職、生徒指導で再検討	教員対象アンケートにより評価
1-6	生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	生徒指導 各教科担任 各担任	「自分には良いところがある。」に肯定的な回答をした生徒の割合は約7割を超えているが、前期に比べて後期はポイントが減少する傾向にある。	【成果指標】生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進することで、生徒の自己有用感を高める指導をしている。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		CまたはDの場合、管理職、生徒指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価		
2	道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にできる豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。	2-1	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にする心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育くむ。	道徳教育 担当 各担任	「人を大切にする心が広がった」に肯定的な回答をした生徒の割合は8割を超えている。道徳推進教師を中心に学年や学校全体での互見授業などの取り組みを進めている。	【満足度指標】道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自分の心の成長や人を大切にする心が深まったと感じている。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にする心が深まったと感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		CまたはDの場合、道徳担当で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		2-2	総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	総合的な学習 担当、 キャリア担当	「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした生徒、「将来の夢や目標に向かって努力している」の項目に肯定的な回答をした生徒はともに7割を超える結果となっている。キャリア的行事に対しては9割の生徒が良い機会と捉えているだけに、今後もキャリア教育の焦点化や体系化を図り、自らのあり方・生き方を考える機会を充実させていく必要がある。	【成果指標】キャリア学習に関わる様々な取り組みを通して、視野を広げ自分の将来について深く考えるようになっていく。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		CまたはDの場合、総合、キャリア教育担当で再検討	生徒対象アンケートにより評価
							キャリア的行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満			
							将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満			
2-3	学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組ませ、自主的・実践的な態度を育てる。	特別活動 担当	色々な活動を自分たちの手でやり遂げようとする意識が芽生え行動にも表れている。今後はさらに生徒自身が判断したり考えたりして、最後まで粘り強く行動できるようにしていく必要がある。	【努力指標】学級・学年の活動や生徒会・委員会の活動を自分たちで企画や準備、運営をしようと努力している。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		CまたはDの場合、特別活動担当で再検討	生徒対象アンケートにより評価		

重点指標		具体的取組	主担	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-1 生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	研究・学習 各教科	与えられた課題に対しては粘り強く取り組む姿勢や態度は身に付いてきている。さらに学ぶ意欲を育む授業を目指していく必要がある。	【満足度指標】適切な指導内容や課題により、授業への満足度を高めることができる。	教材研究に取り組み、「授業が良くなる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		3-2 付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	研究 各教科	自分の考えを発表したり、グループ活動などで話し合う活動は大切であると95%以上の生徒が考えており、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると89%の生徒が答えている。各教科において、学習の目標や狙いを達成するために、効果的にグループやペアでの活動を取り入れてきていることが成果として現れている。	【満足度指標】話し合い、学び合い活動が充実し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		3-3 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教える、学ぶ指導を行う。	学習 各教科	生徒が主体的な学習を身に付けるために、「TO・D O リスト」の変更や課題の精選、フォーサイト(スケジュール帳)の活用を行っているが、まだ十分な成果を感じられていない部分がある。今後も、取り組みの検証及び改善を継続していく必要がある。	【成果指標】全教科で、基礎・基本の力が確実に定着するよう課題の出し方、評価方法を工夫し、学力推移調査等の結果に繋がっている。	個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価
		3-4 論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	研究 各教科	「論理的思考力・表現力」を育成することを意識し、各教科で根拠や筋道を明確にし、説明や論述させる指導が行われており、今後もさらに研究実践を重ねる必要がある。	【成果指標】全教科を通じて根拠や筋道を明確にして説明させるよう指導し、生徒の「論理的思考力・表現力」を伸ばすことができている。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価
		3-5 批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	研究 各教科	「批判的思考力」を育成することを意識し、各教科で課題設定、発問、学習形態等の工夫を重ねており、今後もさらに研究実践していく必要がある。	【成果指標】全教科を通じて多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」を伸ばすことができている。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価
		3-6 高校の学習内容を視野に入れてた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。	コミュニケーション 教科 アドヴァンス 数学 各教科	6年間の系統性を意識して、国語科は高校と接続した評論や古典の学習に、英語科は高校へのつなぎ教材に、数学科は高校の内容に、それぞれ3年生の後半に取り組んでいる。社会科や理科においても、高校教員による授業や高校生との交流授業などの発展教材に取り組んでいる。	【努力指標】6年間の系統性を意識した指導を行うことで、生徒の学力が向上した。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価
		3-7 自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	研究・学習 各教科	家庭学習を計画的に進めている割合は約6割であり、学年進行で下がる傾向がある。中高一貫教育校に共通する課題でもあり、改善が必要である。	【努力指標】家庭学習時間の目標を設定し、予習・復習の大切さを理解するとともに、年間計画やテストを意識し見直しをもって学習を進めている。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各学年で再検討	生徒・保護者・教員対象アンケートにより評価
4	教職員の働き方や業務改善に関しての意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。	4-1 長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を確保する。	教頭	年度当初に時間外勤務を減らしていくための方針を確認し、最終退校時刻、月一回の定時退校日、部活動の休養日等を確認し18時退校を目標として全職員で取り組んでいる。80時間以上は月平均5名程度となっている。	【成果指標】時間外勤務時間の平均を前年度より減少させ、時間外勤務時間は月80時間を超える教職員ゼロを目指している。	時間外勤務時間月80時間を超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0～2人 C 2～4人 D 4人以上	CまたはDの場合、管理職で再検討	勤務時間記録表で評価
		4-2 中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	教頭 教務	入学者の保護者の意識は高く、授業参観、学級、学年懇談会の参加率は非常に高い。オープンキャンパス、学校説明会に参加する児童、保護者の数は少しずつ盛り返しているが、まだ少なく、適性検査の受験者数にも大きな影響を与えている。今後も、さらに金沢錦丘中学校のよさを、県民にアピールしていく必要がある。	【成果指標】中高一貫教育校の現状の公開やよさのアピールを積極的に行うとともに、オープンキャンパス、学校説明会の参加人数や適性検査の受験者数をあげる。	中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	CまたはDの場合、情宣の方法を再検討	保護者対象アンケートにより評価
						秋の学校説明会参加者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満	CまたはDの場合、会の在り方を再検討	※今年度は秋の学校説明会のみを開催
						適性検査の受験者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満	CまたはDの場合、管理職、教務で再検討	適性検査の受験者数で評価